

図3.16 価格上昇への対処と温暖化対策税導入に対する考え方(灯油)

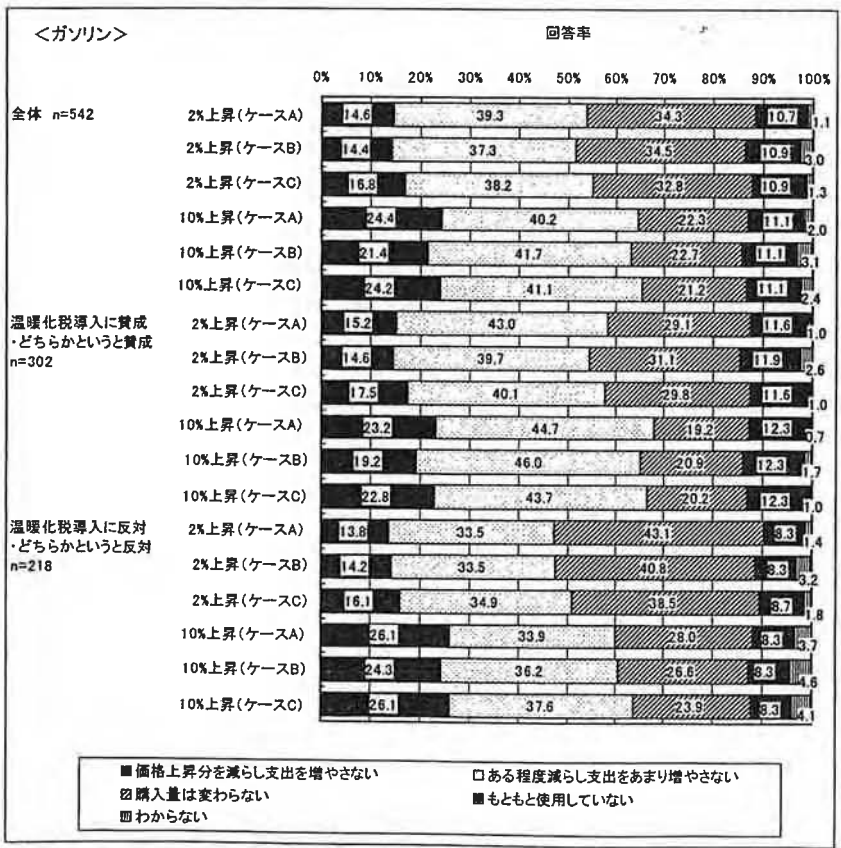


図3.17 価格上昇への対処と温暖化対策税導入に対する考え方(ガソリン)

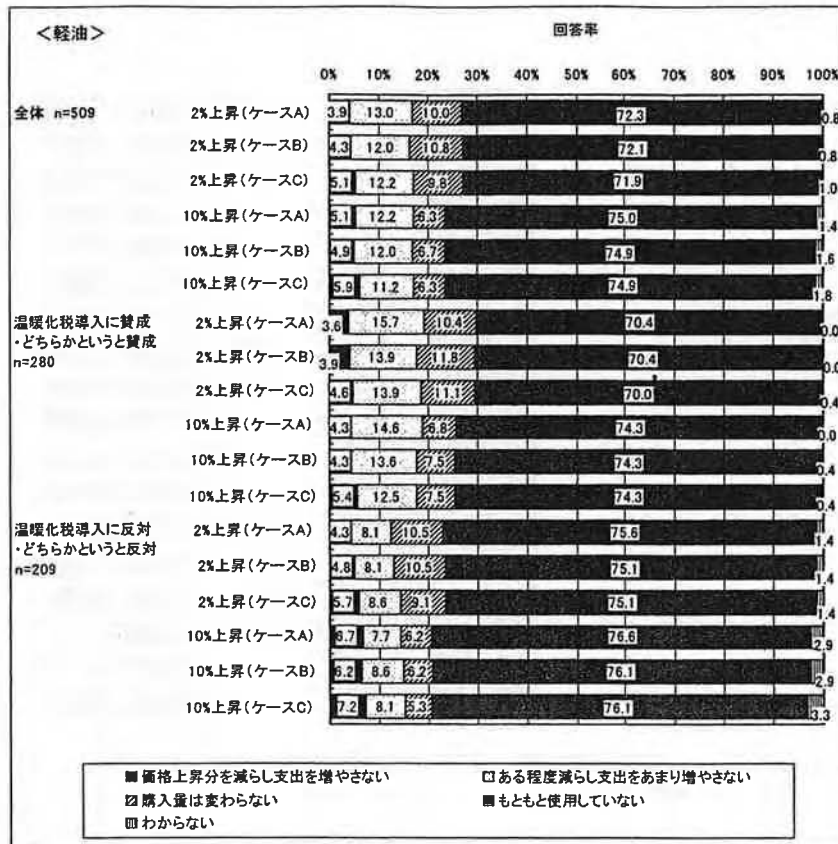


図3.18 価格上昇への対処と温暖化対策税導入に対する考え方(軽油)

次に、各種エネルギー料金の使用料あるいは消費量の認識度について尋ねた質問7と、質問8、9との関連をみる。

価格上昇要因および料金の上昇率が同一の場合でそれぞれ比較すると、概ね、それぞれのエネルギーについて「日頃どの程度支払っているか（あるいは消費しているか）は概ね想像がつく」と回答した人の方が、エネルギーの価格が上昇した場合に「価格の上昇に見合う程度に購入（使用）量を減らし、支出全体を増やさない」または「ある程度減らして、支出全体があまり増えないようにする」と、購入（使用）量を減らすように対処する回答が多い。逆に、「購入量は変わらない」は、「日頃どの程度支払っているかも消費しているかもあまり想像がつかない」とした人でより多くなる傾向が見られた。

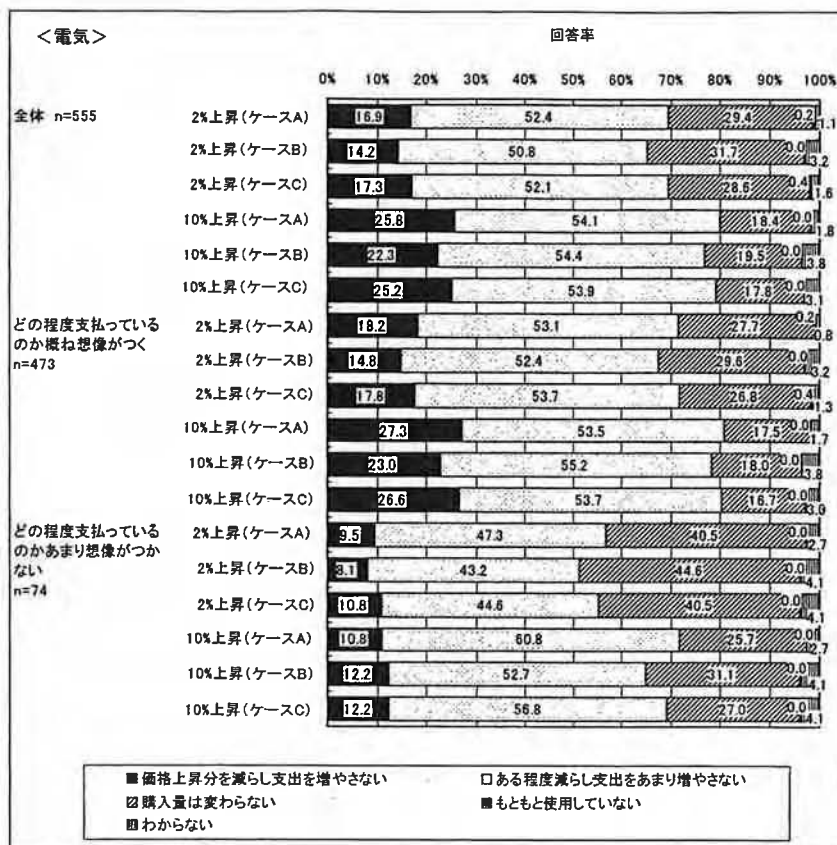


図3.19 価格上昇への対処とエネルギー料金の認識度(電気)

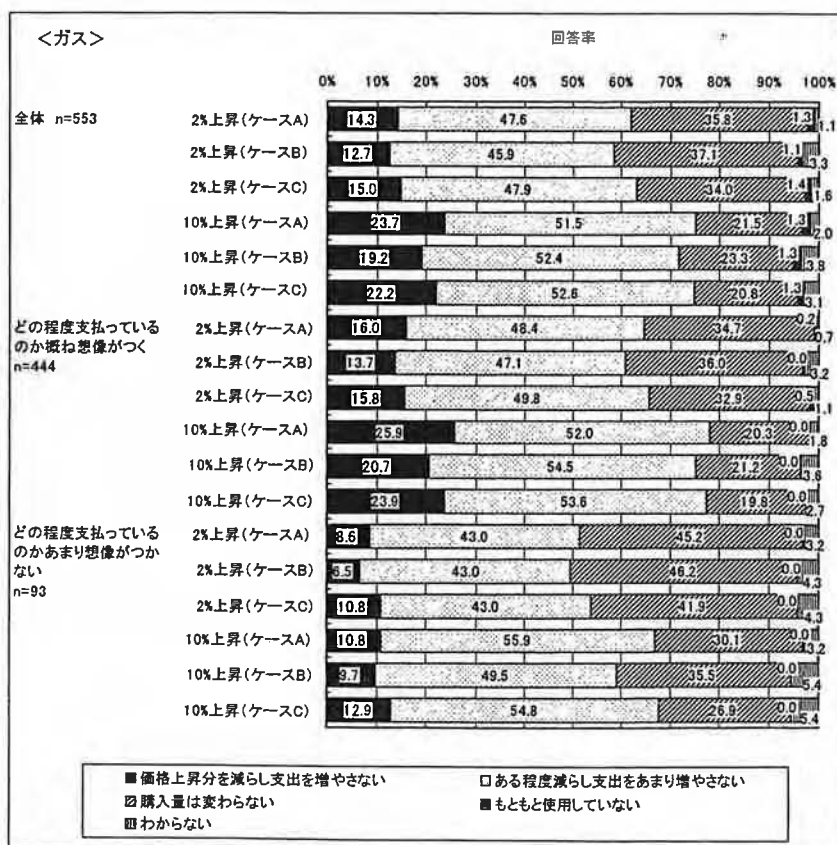


図3.20 価格上昇への対処とエネルギー料金の認識度(ガス)

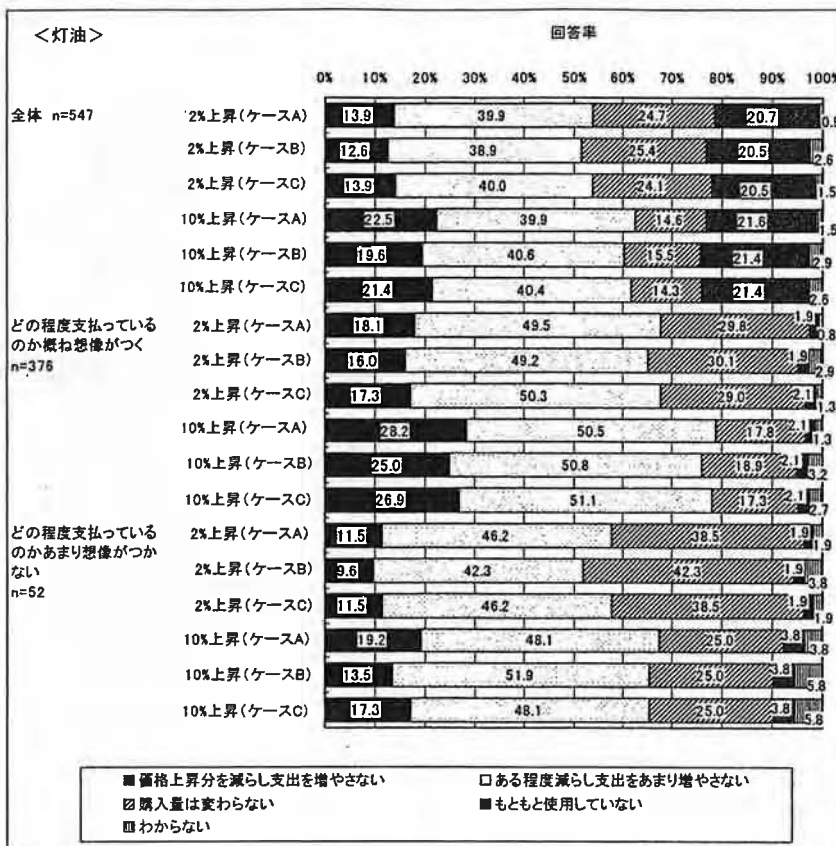


図3.21 価格上昇への対処とエネルギー料金の認識度(灯油)

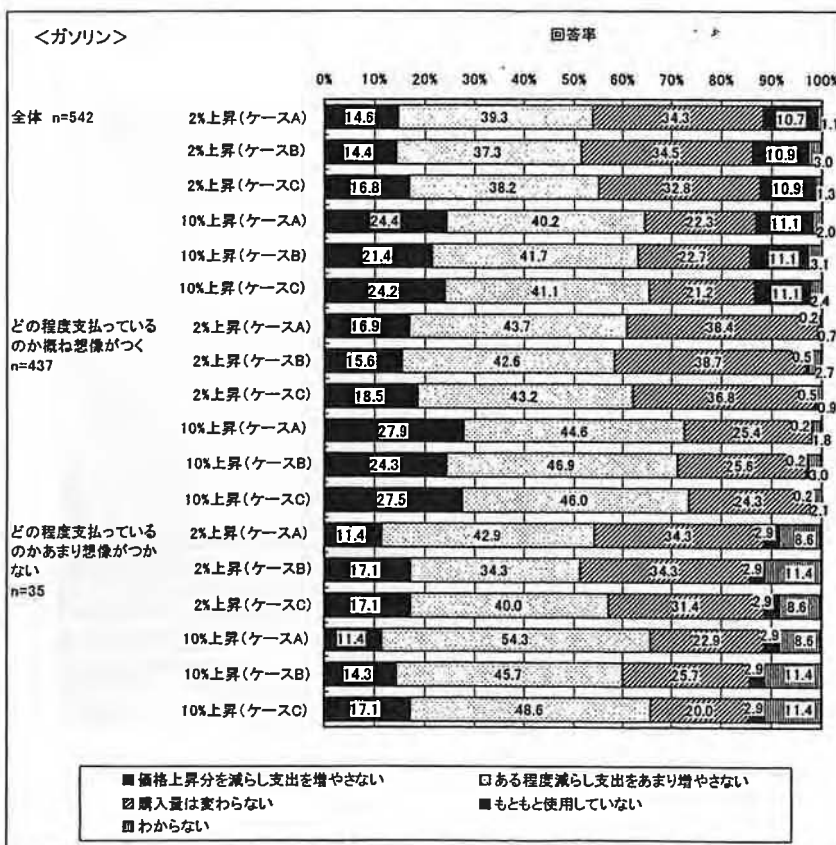


図3.22 価格上昇への対処とエネルギー料金の認識度(ガソリン)